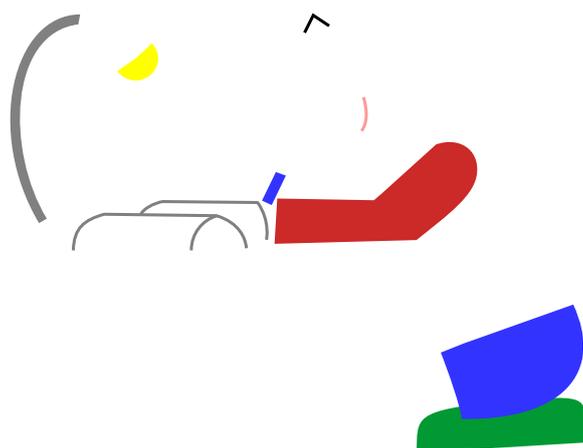


小野の子どもを伸ばす

家庭学習の手引き

～自ら進んで学ぶ子どもを育てるために～



大津市立小野小学校

1. 家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。日々の家庭学習の積み上げによって、次のような教育的効果が期待できます。

①学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返すことで身につけてきます。学校で「わかった」ことが反復練習によって「できる」という自信に変わります。

②脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日くりかえし使うことで活発に働くようになっていきます。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小学生のうちからどんどん脳を鍛えましょう。

③学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。毎日続けることで、やがて当たり前な習慣になり、生涯学習の礎となります。少しずつでもコツコツと継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習をすることが大切です。

④がまん強さ・根気・集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて、学習や読書等の時間をきちんと確保することは、計画的な時間の使い方や規律ある生活にもつながります。そのためには、テレビを消す、みんなで読書をするといった家族全員の協力が必要です。

⑤家族のふれあい

「本を読んでいる時、横で聞いてあげる」「勉強が分からない時、教えたり調べたりしてあげる」など、家庭学習をしている子どもに親が関わることによりコミュニケーションがはかれます。家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神の安定につながり、心身や頭脳も健やかに育ちます。



2. 家庭学習のポイント（保護者の皆様へのお願い）

家庭学習の意義は前述の通りですが、効果を上げるためには、保護者の皆様の協力が必要です。子どものやる気を引き出すような働きかけをお願いします。

①決まった時間に毎日こつこつ

学校では、各学年に応じた宿題を毎日出しています。学校が休みの日でも例外ではありません。家庭学習はとにかく毎日続けることが大切なのです。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあるかと思います。その場合は、先に済ませるとかテレビやゲームをなしにするなどして時間を生み出すことも必要になってきます。家族で十分話し合って実行して下さい。

②集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。長時間学習することで効果が上がるとは言えません。短時間で集中して勉強することが長続きのこつです。学年×10分程度を目安にして、集中してがんばることを心がけて下さい。

③家庭学習をしているときは「ながら」をしない

テレビを見ながら、おやつを食べながら、話をしながらの「ながら勉強」は効果がありません。またとなりの部屋からテレビの音が聞こえるような環境も子どもは集中できません。見たい番組はビデオに録画するなどして工夫しましょう。静かに学習できる環境をつくるためには家族の協力が欠かせません。

④整頓された場所で、よい姿勢で学習する

整頓された机に向かって、よい姿勢で学習するようにしましょう。マンガやゲーム、おもちゃなど、気が散るようなものが近くにあっては学習に集中できません。親の目が行き届き、本人が落ち着いて集中できる学習環境づくりが大切です。

⑤子どものがんばりを認め、ほめて励ます

親や教師が、子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることで自信がつき、進んで学習しようという意欲が高まります。つつい親は口うるさくなりがちですが、強制したり、間違いをきつく叱ったりすることは逆効果になります。

⑥学力アップは規則正しい生活から

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、さまざまな調査で明らかになっています。夜遅くまで勉強して睡眠時間が少ない子よりも、きちんと睡眠時間を確保している子の方が成績が良いというデータもあるそうです。

学校でも家庭でも、生き生き元気に学習に取り組めるように、早く寝かせ、早く起こし、朝ご飯をしっかり摂らせましょう。就寝時刻はそれぞれの家庭の事情があるかもしれませんが、下学年では9～10時間、上学年でも8～9時間の睡眠時間はぜひ確保したいものです。

3. 家庭学習の方法

- (1) 担任からでる「宿題」を最初に取り組みせましょう。
- (2) 時間が余ったら自主学習参考例の中から選んで取り組みせましょう。(高学年は自分で内容を考えてもよいでしょう。)
- (3) どうしても勉強に飽きてしまうときは、読書などでもかまいませんので、必ず机に向かわせて下さい。「机に向かう」という習慣が大事です。
- (4) 勉強が終わったら、次の日の準備をさせて下さい。鉛筆をけずり、連絡帳や時間割を見て準備物を整え、明日の学習予定をしっかりと頭の中に入れておくように心掛けて下さい。

(自主学習の参考例)

国語	算数	その他の教科
<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習 ・漢字ドリル ・意味調べ ・日記 ・音読・視写 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習 ・計算ドリル ・教科書の問題 ・マス計算 ・テストのやり直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や関連した内容を本やパソコンなどの資料で調べる。 ・授業で学習したことをノートにまとめる。
日常生活	<ul style="list-style-type: none"> ・読書をしましょう。言葉の力や想像力を高めます。 ・国語辞典、漢字辞典、図鑑などを身近に置いて調べましょう。 ・日本地図、世界地図、地球儀を身近に置いて調べましょう。 ・新聞で興味のある記事を読んでみましょう。 ・ニュースや社会的な番組を親子で見ると話し合みましょう。 ・自然や生き物とふれあい、観察してみましょう。 ・詩歌の音読や暗唱をしましょう。 ・余裕があれば、市販のドリルや問題集にも取り組んでみましょう。 ・頭を使うゲームやクイズをしましょう。 ・家の仕事を進んでやりましょう。 	



4. 各学年の家庭学習について

各学年の子どもたちの発達段階に応じた保護者としての関わり方や、学習の重点箇所などについて次ページ以降まとめていますので参考にしてください。

1・2年生

<学習時間の目安 10分～20分>

◆こんな時期です◆

- 何でも知りたがっています。
- がんばったこと、よいところをほめてほしいと思っています。
- 一人で学習することや、やり方を決めることはまだ難しいです。

◇いっしょにやってやる気を起こす◇

- ・いっしょに、学習内容ややり方を決めましょう。
- ・できたことをほめることで、意欲が高まります。

ポイント

①子どもの学習に関心を!

「家でも勉強する」という習慣をつけましょう。

- ・少ない時間でもいっしょにやる。
- ・いっしょに出来ない時は後で目を通す。

②学習環境について

学習机など「いつも決まった場所」をつくりましょう。

- ・テレビは消す。せめて音量を下げるように家族が協力する。子どものやる気につながります。

③家庭と学校との協力

学校からの連絡や便りをいっしょに確かめましょう。

- ・毎日連絡帳を開いてサインをする。

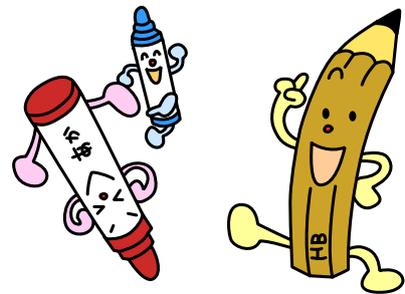
身につけたい力

習慣づけの1年生

- ・鉛筆を正しく持って文字が書ける。
- ・ひらがな、カタカナが読めて書ける。
- ・助詞「てにをは」を使い分けて文章が書ける。
- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・たし算やひき算が正確にできる。

集中力を高める2年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・順序よく話をするができる。
- ・九九がすらすら言える。
- ・たし算、ひき算、かけ算が正確にできる。
- ・定規を使って線をきれいに書きながら筆算ができる。
- ・決められた長さの直線を引くことができる。
- ・時計(アナログ)を見て、何時何分か読むことができる。



◆こんな時期です◆

- いろいろなことに興味を示し、行動範囲が広がります。
- 好きなことに熱中するようになります。
- 自分でやろうとすることが増えてきますが、まだ手助けは必要です。

◇認めて、ほめて、自信をつける◇

- ・家族の温かいアドバイスや励ましの言葉によってやる気を起こします。
- ・宿題を見るなど手助けして応援すると、少しずつ自分でできるようになります。

ポイント

①子どもの学習に関心を！

がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。

- ・分からないところはいっしょに考える。
- ・子どものちょっとしたがんばりをほめる。

②学習環境について

学習を始める時間をいっしょに決めましょう。

- ・テレビやゲームは家族で話し合って時間を決める。

③家庭と学校との協力

学校からの便りを家族に手渡す習慣をつけましょう。

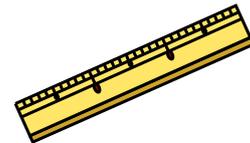
- ・便りを置く場所を決める。
- ・食事の時に渡すなど約束する。

 身につけたい力
分岐点を乗り越える 3年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・短い詩や百人一首をいくつか暗唱できる。
- ・簡単なことわざを知っている。
- ・主語と述語の意味が分かる。
- ・かけ算や割り算など正しい手順で計算できる。
- ・はかりを使って重さが読める。

「9歳の壁」を破る 4年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・国語辞典や漢字辞典を手元に置いて使い方に慣れる。
- ・文と文のつながりを考えながら指示語や接続語を使う。
- ・わり算の筆算ができる。 ・小数と分数の意味が分かる。
- ・コンパスを正しく使うことができる。 ・ローマ字の読み書きができる。
- ・地図を使って見知らぬ地名や場所を調べることができる。
- ・47都道府県の位置が分かり、正しく名前を書くことができる。



5・6年生

<学習時間の目安 50～60分>

◆こんな時期です◆

- 自分でできているので、言葉かけに配慮が必要です。
- 得意な教科や苦手な教科を意識するようになります。
- 体も急激に変化します。バランスが崩れ不安定になることもあります。成長を見守ってほしいと思っています。

◇見守って、伸ばす◇

・子どもの声をよく聞き、成長を温かく見守ることで、将来の夢や目標を持って努力するようになります。

ポイント

①子どもの学習に関心を!

計画を立てて自力で学習を進めるよう見守りましょう。

- ・ちょっとしたがんばりをほめる。
- ・他の子と比べず、昨日の我が子と比べてほめる。

②学習環境について

自分にあった生活のリズムをつくりましょう。

- ・夕食前、早朝など、学習に取り組む時間帯を生活の中に位置づける。

③家庭と学校との協力

思春期を迎え、子どもの心身について気になることがあれば担任と話し合しましょう。

- ・家庭でも学校でも子どもの話をよく聞く。

身につけたい力

応用力を高める 5年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。 ・パソコンでローマ字入力ができる。
- ・今まで習った漢字を使った熟語の8割以上が書ける。
- ・小数のかけ算、わり算ができる。 ・分数のたし算、ひき算ができる。
- ・割合、百分率を使った問題が解ける。 ・理科の実験器具の正しい扱い方を知っている。
- ・日本の産業の特徴について知っている。
- ・英語に慣れ親しみ、簡単な会話やあいさつができる。

中学校生活に希望がもてる 6年生

- ・小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・小学校で習う漢字を使った熟語の8割以上が書ける。
- ・歴史に残る古文や百人一首のいくつかを暗唱できる。
- ・分数、小数のたし・ひき・かけ・わり算ができる。
- ・歴史上の人物やできごとについて、だいたい説明できる。 ・重要な年号を30程度覚える。
- ・パソコンで情報を収集、選択できる。 ・理科の実験器具の正しい扱い方を知っている。
- ・英語に慣れ親しみ、簡単な会話やあいさつができる。

